

ジェイムズ・ホッグ

8 リデルの東屋

ある物語

「娘さん 森へ行かないか
野原へ行かないか
リデルの東屋へ行かないか
そこで一緒に休まないか」

「ダグラス 森には鹿がいるし 5
野原では風も吹いています
リデルの東屋へ行くとしても
あなたとは行かないわ」

「娘さん 雄鹿は雌鹿をつれて 10
俺の丘で鳴いている
俺の味方の一団はボーダーの谷に集い
俺たちの馬は風より速く駆ける

角笛をひと吹きすれば
千もの仲間が応じる
さあ リデルの東屋へ行こう 15
何も怖がることはない

おぼえているかい 人目の届かぬリデルの東屋で
夕闇の中 二人でおちあって
その初々しいバラの唇に口付けて
結婚しようといったよね 20

君の頬には赤みが差し
瞳には涙が浮かんだ
きれいなジェーン 君が俺を愛していなかったなんて
夢にも思わなかったよ」

「あの日のことはひどくひどく悔やんでいます 25
後悔はもっと深くなるでしょう
あなたは乙女の気持ちなど気にもしなければ
私のバラの頬など愛してもいなかったから

あなたが欲しかったのは 結婚の床でも
私の誓いでも喜びの涙でもなかったわ 30
あなたが欲しかったのは ニス川が流れる土地
どうやって手に入れようかとそればかり

もう行って 不実な恋人
これ以上私の心をかき乱さないで
あなたの東屋には一羽の鳥がいるでしょう 35
その歌をあなたにも聞かせてあげたかった」

ダグラスの浅黒い顔が かつと赤くなった
目を背けると
剣の金の柄に手をかけた
「あのちっぽけな鳥が一体何を歌えよう」 40

足を怪我した鳥は枝の上で歌った
「ああ 娘さん なんてお気の毒
木の下に眠る美しい騎士は
なんてお気の毒

騎士の頬は 冷たい冷たい土の上 45
帯も剣も身に付けず
その方の血は今でも 身内の方の槍についていますよ
ああ 娘さん なんてお気の毒」

「仲間の郷士は森に集まり
俺の馬は木の下で待っている 50
つらい運命を受け入れるか
一緒に馬で行くかのどちらかだ」

なぜ カラバロックの郷士は
帯と剣を身に付け 急いで駆けているのか
なぜ ジャーディンは 55
野山を急いで越えているのか

なぜ 皆はリデル川の浅瀬を
タラスの谷をくまなく探しているのか
ニス川が流れる土地の女相続人は
親族の手から奪われた 60

娘の母親は いついつまでも嘆くだらう
塩辛い涙の海に膝をついて
マクスウェルの者たちは いついつまでも
花嫁の到着を待たせよう

ダグラス家の者たちは いついつまでも
かの惨事を嘆き呪うことだらう
夜が明けるころ
リデルの東屋でなされた凶行を

65

(鎌田明子訳)